

平新報

亞留行會行記(五)

天地すでに秋老い、過る時禁酒せる佐藤氏案する事
日の暴風雨に害はれし草木類なり、然るに同村字マ
哀れさいと深し、近來稀有ネの岩屋山藥師堂にて少懸
なる被害状況海村より傳り、米店主文庫主に水薬
て傷心しきり、そが觀察に強う、文庫主余儀なく水
言借りて第五回亞留行會を口にするは味は覺の酒
晴れ渡りたる十一月二十一の味、香又芳醇ならざるも
日催す、午前六時三猿文庫正しく清酒、巧に欺れたる
へ集合、三猿文庫主初め諸一同、周到なる手段に怒る
橋敬一郎氏、山野邊林一氏を忘れたる果然たり、やが
阿部輪店主加ふるに泉屋栗、同村字富岡地内丘上に大
子店主あり記者の參着を待、日堂あり、詣すれば境内に
侘ぶと云ふ。茶一服を喫し、「澤村勝爲の碑」二基、一
直らに出發、此度のコースは安藤信守子孫額、他は梅
は、好間村の一部を通り平崎安由書とす、寺院めし
窪村に至り小川村を経て赤建物なきに數基の墓石に不
井村より歸着の豫定に此日番をい、殊に目立つ墓
の案内役佐藤三郎氏へ立石に蘇鐵の鉢植の供へある
寄る、各自服装余りに調和を文庫主檢すれば、これぞ
を欠き浴道の人奇異の眼も「澤村勝爲」の墓にして此
て見送る、川中子、平窪街地勝爲が自及して果てし
道にては風水害の跡判じ難、今回の催しに大なる發見と
し、平窪村字集鴨なる八重云ふべし、傍なる中老の農
垣神社はじめ巡拜の神社(夫に寺號を問へば發音不鮮
社名後出參照)荒廢して佐明にして問質す再三再四漸
藤氏の案内なかりせば旅籠う「アアン寺」と知る、や
の記成り難きを如何せん、がて小川村に入り小川江筋
道漸う平窪に至る頃より山に從ひ取入口近傍に至りて
野邊林一氏水薬瓶取出し「阿部輪店主負ふヲニシタツ
胃を病む」と時折目盛をク重からんとて文庫主米店
調ベチビリく口にするを主に替らん事を乞ふ、強健行
敬一郎氏氣の毒がりて歩行なる米店主快く引受け、三
を加減す、殊に酒害にて一貫余の背囊を負ふて小川街
借りて無事平窟へ歸着

柔道

昇段審査 決定者

- 昭和八年一月講道館開
式に昇段すべき磐城柔道有
段者會の去る十一月十三日
相馬中學校に於て審査決定
せしもの人名左の如し
- 二段
佐藤道雄 村岡彦平 阿
部克英 加藤市 中村三
郎 坂本文彦 寺島六郎
立谷清治 山野邊唯一
武川信夫 關内正一
- 初段
馬場恭治郎 叶三郎 佐
藤忠雄 遠藤正喜 吉田
遠平 原田三郎 遠藤角
之助 前田菊治 阿部文
平 小林尊徳 草野一郎
猪狩不二雄 矢島久司
椎根保美 遠藤文也 太
田一雄 熊川忠 鈴木正
男 目黒秀夫 鈴木忠重
紺野卓 沼崎友茂 柄本
重三 菅野勲 山野邊春

惜しき缺を分ちぬ、
(安藤生記)
參拜せる神社次の如し
愛宕神社(川中子) 八重垣
神社並に古家神社(平窪村
集鴨) 熊野神社、稻荷社、
岩屋山藥師堂、天王様、
安寺大日堂、八重神社、
小川村) 二俣神社、西國三
十三ヶ所觀世音堂並に天王
様、二箇(屋)神社、諏訪神
社(神倉山) 小川稻荷社、
天王様、諏訪神社(赤井村
北赤井) 以上

雄・高橋不二夫 長尾春
道 草刈剛 岡田廣 高
橋昇 合計三十名
三猿文庫へ
入庫本目録(七)
◇現在書目 海野敬義堂
◇軟式野球 軟式野球協會
◇學鏡 丸善
◇支那雜誌 春陽堂
◇日本魂 富山房版
◇日蓮主義 日蓮宗發會
◇滿蒙手引 滿蒙發會
◇國民思想 思想研究所
◇國民政界 前田悟迷氏
◇詩南軍 其社
◇新刊案内 佐々木書店
◇尺八界 マルトモ書店
◇磐城サイレン 其社
◇塔 十一月 磐城セメント
其社

×光線科
平町南町
電話二二九番

内科小兒科皮膚科
藤沼醫院
平町細屋町
電話五〇七番

山野邊無砂搗精米所
山野邊林一 舊名久利
電話三一八番

辰(官) 許平町中町
砂クサのクネリ
膏(家傳妙藥)本舖山田盤磨

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目
長電話三番

吸入用酸素純度99%
高久病院
平町田町
電話五一三番

新製品ヨット安全剃刀
關内藥局
電話四〇番

平町五丁目
釜屋商店
電話九番・九九番

警中職員暴行事件純れ
本五日同窓會幹部母校訪問
校長に善處を希望

警中職員が教へ子毆打事方切願した。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。

部一同會して校長に善處すべく協議し、本五日母校に橋本校長を訪問する事になつて居るのである。

大略左の如くで筆者は同窓會員の一人として第三者にならざるが公平の批判はなし得ぬか知らぬが、警中職員に善處を追ふこと。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。

馬燈の如く私の頭を駆け廻りて憲法政治の常道に反對せ戦ひ、仇と闘ひ、敵と戦つて二途何れも決定せねばなる内を上げて叫ばれたる協力内閣なるものが出来て我が大日本帝國のためならぬ、随つて國民は覺悟

今年も最早や暮が近くな々に悲愴な世相は至る所に於いて、既に政治家の威信は地獄に墜ちた。不景氣の副産物人と思ふ時、吾々國民は血である。正面から見ても裏

遊興してはならぬ等と相互に人間である以上野暮な事は申しぬが、以上の人々の如き指導階級に在つて欲しいものである。

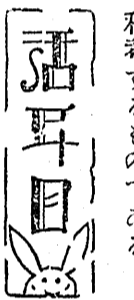
警中職員に善處を追ふこと。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。同窓會は警中職員に善處を追ふこと。

平町古鍛冶町踏切番、安齋秀雄氏は、各學校兒童千人近くの生徒の往復の際、故なき後押し等日々努力に對し、同區長木澤常松氏外有志は今回鐵道大臣に表彰方を上申せりと。

農村土木匠工事で、大分人氣が出て来た所、過般の大暴風、洪水で人氣は吹き飛ばされ、より以上の不景氣風が吹いて来た。諸物は騰る、収入は増えぬ、政治家は此の年末を控えての世相どう観、善處せんとするのか。

平町町長青沼隆太郎氏、信濃理事長時代と急度元氣が出て来た様だが、反り身たなり過ぎて居るとの噂、一、愁る程、頭の下る稲穂かな」とかありました。

縣が主催で其筋初め各官廳、教化團體が後援で行つた漢々とかいふ何だか判らぬ舞踏を、女學校の如きは授業を休んで迄、観せられた其の強要して賣つけた盆金は百二十五圓とか、そんな事をすればなら寄附をうけて貧民救濟なり社會教化事業費に當てた方が適切ではあるまいか、かくの如きは縣としてみなすべき事はあつた、その批判が多い。



新野

昭七七年を
送る
江尻中
馬燈の如く私の頭を駆け廻りて憲法政治の常道に反對せ戦ひ、仇と闘ひ、敵と戦つて二途何れも決定せねばなる内を上げて叫ばれたる協力内閣なるものが出来て我が大日本帝國のためならぬ、随つて國民は覺悟

今年も最早や暮が近くな々に悲愴な世相は至る所に於いて、既に政治家の威信は地獄に墜ちた。不景氣の副産物人と思ふ時、吾々國民は血である。正面から見ても裏

御祝用 子供服大賣出
七五三
お嬢さまお坊さまの可愛らしい子供服。子供服。子供服。子供服。

おかや洋服店
男女柄オーバー
男 服... スーツ
女 服... ビロード

平吟社川柳新題
一、客 各五句吐
一、灯
一、切十二月十二日嚴守
一、選者吉成劍突坊先生
一、平新報新年號紙上發表
一、投句所 平一丁目
綿引方平吟社宛

新築 開店 御披露
各位益々御清祥之段奉賀上候
落て去る八月一日類焼以來休業致し
居り候處愈々落成本日より從前の通
り開業いたし候間舊に倍する御ひあ
き御引立を偏に御願申上候 敬具
昭和七年十二月四日
平町南町川岸通
御料理 玉よし
電話四二六番